

RP501R

取扱説明書

目次

操作ガイド	2
演奏する	2
曲を再生する	4
コードに合わせた自動伴奏（リズム機能）を使う	5
演奏を録音する	6
USB メモリー（別売）の曲を再生する	7
各部の名称とはたらき	8
フロント・パネル	8
リア・パネル（機器をつなぐ）	9
底面（ヘッドホンなどをつなぐ）	9
演奏する前に	10
蓋を開ける／閉める	10
電源を入れる／切る	10
基準ピッチを合わせる	10
いろいろな設定をする（ファンクション・モード）	11
ファンクション・モードの基本操作	11
鍵盤のタッチ感を調節する（キー・タッチ）	11
ツインピアノの音の鳴りかたを変える（ツインピアノ・モード）	11
鍵盤を2つに分けて2人で演奏する（ツインピアノ）	11
トランスポーズする対象を選ぶ（トランスポーズ・モード）	11
鍵盤や曲を移調する（トランスポーズ）	11
ピアノ音にヘッドホン 3D アンビエンス効果をかける（ヘッドホン 3D アンビエンス）	11
他の楽器と音の高さを合わせる（マスター・チューニング）	11
調律の手法を変える（ストレッチ・チューニング）	11
ペダルのはたらきを変える	12
ベース・パートの動作を設定する（リーディング・ベース）	12
スプリット・オン時のコード認識方法を設定する	12
シーケンサーとつないだときの2度鳴りを防ぐ（ローカル・コントロール）	12
曲をコピーする（コピー・ソング）	12
Bluetooth 機能	12
Bluetooth 譜めくり／MIDI 切り替え	12
Bluetooth 譜めくりペダル・アサイン	12
一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする（オート・オフ）	12
設定を保存する（メモリー・バックアップ）	12
工場出荷時の状態に戻す（ファクトリー・リセット）	13
ボリュームの最大値を設定する（ボリューム・リミット）	13
Bluetooth®（ブルートゥース）機能を使う	14
こんなことができます	14
譜面アプリの譜めくりをペダルで操作する	14
ペアリング済みのモバイル機器を接続する	14
譜めくり機能の操作キーを変える	15
MIDI データのやりとりをする	15
Bluetooth 機能に関するトラブル	15
故障かな？と思ったら	16
こんな表示が出たら（メッセージ一覧）	16
音色一覧	17
リズム一覧	17
コードの押さえかた一覧	18
内蔵曲一覧	20
安全上のご注意	22
使用上のご注意	22

主な仕様 ローランド RP501R : Digital Piano

鍵盤	88 鍵（PHA-4 スタンダード鍵盤：エスケープメント付き、象牙調）
音源	ピアノ音：スーパーナチュラル・ピアノ音源 MIDI フォーマット：GM2、GS フォーマット、XGlite 対応
Bluetooth	MIDI、譜めくり：Bluetooth 標準規格 Ver 4.0
電源	AC アダプター
消費電力	9W（3W～22W） 9W：ボリュームを中央にしてピアノ演奏したときの消費電力目安 3W：電源投入後、音を鳴らしていない状態の消費電力 22W：定格消費電力
外形寸法（譜面立てを含む）	1,378（幅）× 423（奥行）× 992（高さ）mm

質量	40.8kg
付属品	取扱説明書、「組み立てかた」チラシ、「安全上のご注意」チラシ、AC アダプター、電源コード（AC アダプター接続用）、ヘッドホン、ヘッドホン・フック、譜面立て、楽譜集「ローランドクラシック名曲 60 選」、保証書、ローランド ユーザー登録カード
別売品	USB メモリー ※ 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。

※ 本書は、発行時点での製品仕様を説明しています。最新情報についてはローランド・ホームページをご覧ください。

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.22））をよくお読みください。お読みになったあとは、すぐに見られるところに保管しておいてください。

演奏する

音色を選ぶ ([ピアノ] [その他] ボタン)

本機では、ピアノやピアノ以外のさまざまな音色で演奏を楽しむことができます。

音色を選んだり、音の鳴りかたを調節したりします。

ピアノ音色を選ぶ	[ピアノ] ボタンを押す。
その他の音色を選ぶ	[その他] ボタンを押す。
いろいろな音を選ぶ	[ピアノ] または [その他] ボタンを押してから、 [-] [+] ボタンを押す。
音の広がり調節する (アンビエンス) M	[ピアノ] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押す。 ※ ヘッドホン使用時にヘッドホン 3D アンビエンス (P.11) を「オン」に設定しているときは、ヘッドホン 3D アンビエンス効果のかけ具合を調節できます。
音の明るさを調節する (ブリリアンス) M	[その他] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押す。

[ピアノ] ボタン

表示	説明
1	コンサート・ピアノ 豪華なコンサート・タイプのグランドピアノの音色です。ジャンルを問わずにお使いいただける、最もおすすめのピアノ音色です。

表示	説明
2	バラード・ピアノ 落ち着いたグランドピアノの音色です。しっとり聴かせたい曲におすすめです。
3	ブライト・ピアノ きらびやかなグランドピアノの音色です。アンサンブルの中でピアノを目立たせたいときにおすすめです。
4	マジカル・ピアノ コンサート・ピアノにシンセ・ベルを重ねた、かわいらしい響きの音色です。
5	ピアノ+ストリングス コンサート・ピアノにストリングスを重ねた音色です。
6	ピアノ+パッド コンサート・ピアノにパッドを重ねた音色です。
7	ピアノ+クワイア コンサート・ピアノにクワイア (合唱の音) を重ねた音色です。
8	ロック・ピアノ 芯の太いピアノの音色です。ブリウギの演奏におすすめです。
9	ラグタイム・ピアノ ホンキートンク・ピアノの音色です。ラグタイムの演奏におすすめです。
10	チェンバロ バロック音楽で幅広く用いられた鍵盤楽器の一種で、繊細な音色を奏でます。
11	チェンバロ 8+4 チェンバロに 1 オクターブ上の音を重ねた音色です。

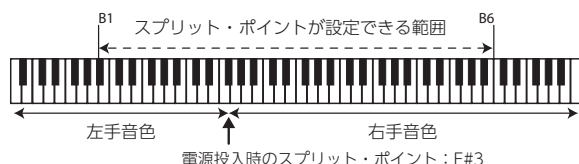


右手と左手で違う音色にする ([スプリット] ボタン)

ある鍵を境に鍵盤右側と左側のそれぞれで違う音色で演奏することができます。

このような演奏を「スプリット演奏」といい、鍵盤が分かれる位置を「スプリット・ポイント」といいます。

スプリットをオンにする	[スプリット] ボタンをオンにする。
スプリット・ポイント を変える M	[スプリット] ボタンを押しながら、分割する位置の鍵盤を押す。
右手音色を変える	[音色を選ぶ] と同じ。
左手音色を変える	[スプリット] ボタンを押しながら、[音色を選ぶ] の操作をする。



※ スプリット・ポイントは、左手音色の最高音になります。

表示 (例)	音名
F#3	F#3
A#4	A#4
C4	C4

メモ

ソング・モード (P.4)、リズム・モード (P.5) で異なるスプリット設定にできます。

2つの音色を重ねる (デュアル)

1つの鍵盤で、2つの音色を同時に重ねて鳴らすことができます。このような演奏を「デュアル演奏」といいます。

デュアルをオンにする	[ピアノ] ボタンを押しながら [その他] ボタンを押す。
デュアルをオフにする	[ピアノ] または [その他] ボタンを押す。
音色を選ぶ	[ピアノ] ボタン [その他] ボタンの音色を選んでから、デュアルをオンにする。

1. [ピアノ] ボタンを押してから、[-] [+] ボタンを押して音色を選ぶ。
2. [その他] ボタンを押してから、[-] [+] ボタンを押して音色を選ぶ。
3. [ピアノ] ボタンを押しながら [その他] ボタンを押して、デュアルをオンにする。
音色 1 と音色 2 が重なって鳴ります。
デュアル解除するには、[ピアノ] または [その他] ボタンを押します。

移調して演奏する (トランスポーズ)

トランスポーズ機能を使うと、鍵盤を半音単位で移調して演奏することができます。

曲を移調して演奏することもできます。

詳しくは「鍵盤や曲を移調する (トランスポーズ)」 (P.11) をご覧ください。

メトロノームを鳴らす ([メトロノーム] ボタン)

メトロノームを鳴らしながら、演奏することができます。
メトロノームのテンポや拍子を変えることもできます。
曲の再生中は、メトロノームはその曲のテンポや拍子に合わせて鳴ります。



メトロノームを鳴らす	[メトロノーム] ボタンを押してオンにする。
テンポを変える	[メトロノーム] ボタンをオンにしてテンポを表示させてから、[-] [+] ボタンを押す。 108
拍子を変える	[メトロノーム] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押す。 4.4 変更できる拍子については「変更できる拍子一覧」をご覧ください。
カウント・インを付ける	メトロノームをオンにしてから、[▶/■] (スタート/ストップ) ボタンを押す。
メトロノームの音量を変える	[メトロノーム] ボタンを押しながらボリューム・ボタンを押す。 0 ~ 10 (小さい) (大きい)

変更できる拍子一覧

表示	拍子	表示	拍子
2.2	2 分の 2	6.4	4 分の 6
0.4	弱拍の音のみ	7.4	4 分の 7
2.4	4 分の 2	3.8	8 分の 3
3.4	4 分の 3	6.8	8 分の 6
4.4	4 分の 4 (初期値)	9.8	8 分の 9
5.4	4 分の 5	12.8	8 分の 12



鍵盤のタッチ感を調節する (キー・タッチ) (M)

鍵盤を弾いたときの手応え (キー・タッチ) を変えます。演奏者の弾く強さに合わせて調節することができます。

1. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押す。
2. [-] [+] ボタンで [F01] を選び、[▶/■] ボタンを押す。
3. [-] [+] ボタンで設定を変える。

設定値	説明
F (固定)	鍵盤を弾く強さに関係なく、一定の音量の音を鳴らします。
L2 (非常に軽い)	L1 よりもさらに軽い設定です。
L1 (軽い)	鍵盤のタッチ感を軽めの設定にします。 ff (標準) より弱いタッチでフォルティッシモ (ff) が出せるので、鍵盤が軽くなったように感じられます。力の弱いかたでも、演奏しやすい設定です。
ff (標準)	鍵盤のタッチ感を標準設定にします。最も自然なタッチで弾けます。アコースティック・ピアノに一番近いタッチです。
H1 (重い)	鍵盤のタッチ感を重めの設定にします。 ff (標準) より強いタッチで弾かないとフォルティッシモ (ff) が出せなくなるので、鍵盤が重くなったように感じられます。ダイナミックに弾くとき、さらに感情がこめられます。
H2 (非常に重い)	H1 (重い) よりさらに重い設定です。

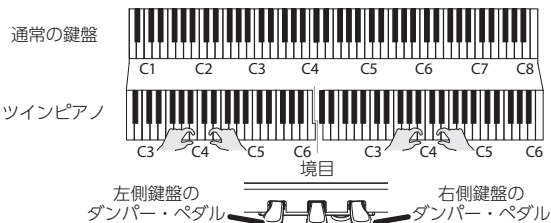
4. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜ける。

鍵盤を 2 つに分けて演奏する (ツインピアノ)

鍵盤を左右の領域に分けて、2 人で同じ音域で演奏することができます。

1. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押す。
2. [-] [+] ボタンで [F03] を選び、[▶/■] ボタンを押す。
3. [0n] に設定する。
※ コンサート・ピアノが選ばれます。
4. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜ける。

ツインピアノの音の鳴りかたを変える (M)	ファンクション・モードで [F02] を選び、[1] または [2] に設定する。 1 右側の音は右スピーカーが大きく、左側の音は左スピーカーが大きく鳴ります。 2 右側の音は右スピーカーのみ、左側の音は左スピーカーのみ鳴ります。
-----------------------	---



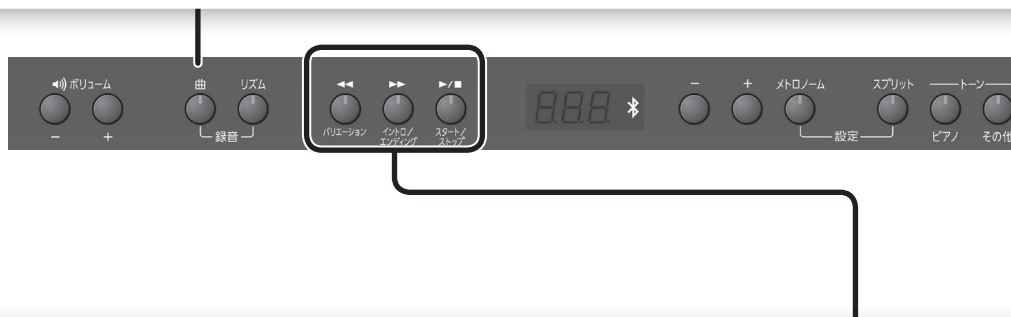
曲を再生する

ソング・モードの基本操作（[曲] ボタン）

[曲] ボタンを押して、ソング・モードを選びます。

	[曲] ボタンを押してから、[-] [+] ボタンを押す。 曲の途中で [-] ボタンを押すと、曲の先頭に戻ります。 <table><tr><th>録音した曲</th><th>内蔵曲</th></tr><tr><td>7.01 ~ U.10</td><td>2.01 ~ d.36</td></tr></table> - ←→ + ・「d、b、c、d」の付く曲は、内蔵曲です。 詳しくは巻末の「内蔵曲一覧」をご覧ください。 ・「U」の付く曲は、本体メモリーに録音した曲です。 ・「7」の付く曲は、USB メモリーに録音した曲です。 ※ [曲] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押すと、カテゴリー「d、b、c、d、U、7」を切り替えることができます。	録音した曲	内蔵曲	7.01 ~ U.10	2.01 ~ d.36
録音した曲	内蔵曲				
7.01 ~ U.10	2.01 ~ d.36				
曲の小節数を変える	[<<] [>>] ボタンで小節数を設定する。 1.				
テンポを変える	[メトロノーム] ボタンを押す。 [-] [+] ボタンでテンポを設定する。 108				

曲の音量を変える	[曲] ボタンを押しながらボリューム・ボタンを押して、曲の音量を調節する。 曲の音量—手弾き音量 91 ~ 99 ~ 19 (曲が大きい) (同じ大きさ) (手弾きが大きい)
すべての曲を再生する	[曲] ボタンを押しながら、[▶/■] ボタンを押す（オール・ソング・プレイ）。



[<<] [>>] [▶/■] ボタンのはたらき

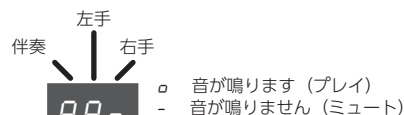
曲の再生／停止をする	[▶/■] ボタンを押す。 曲の最後まで再生すると停止します。
早送り	[>>] ボタンを押す。 [>>] ボタンを押しながら、[<<] ボタンを押すと、早く早送りできます。
巻き戻し	[<<] ボタンを押す。 [<<] ボタンを押しながら、[>>] ボタンを押すと、早く巻き戻しできます。

再生パートを選ぶ

1. [▶/■] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押して、再生パートを選ぶ。

ボタンを押すたびに、伴奏、左手、右手のプレイ（再生）／ミュート（消音）の組み合わせが変わります。

再生パートのプレイ／ミュート状態の画面表示



※ ツインピアノの場合は、左側の演奏は左手パート、右側の演奏は右手パートに録音されます。

※ スプリットの場合は、左手音色は左手パート、右手音色は右手パートに録音されます。

※ デュアルの場合は、音色 1 は右手パート、音色 2 は伴奏パートに録音されます。

※ ツインピアノ、スプリット音色、デュアル音色以外の演奏は、すべて右手パートに録音されます。

コードに合わせた自動伴奏（リズム機能）を使う

リズム・モードの基本操作（[リズム] ボタン）

[リズム] ボタンを押して、リズム・モードを選びます。

スプリットがオンになります。

リズムが鳴っている間は、左手パートはコード認識専用になり音が鳴りません。

リズムを選ぶ	[リズム] ボタンを押してから、[-] [+] ボタンを押す。 1-1 ~ 9-6 詳しくは巻末の「リズム一覧」をご覧ください。 ※ [リズム] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押すと、リズムのジャンルを切り替えることができます。
テンポを変える	[メトロノーム] ボタンを押す。 [-] [+] ボタンでテンポを設定する。 108 設定範囲 20 ~ 250
リズムの音量を変える	[リズム] ボタンを押しながらボリューム・ボタンを押してリズムの音量を調節する。 リズム音量一手弾き音量 9 1 ~ 9 9 ~ 1 9 (リズムが大きい) (同じ大きさ) (手弾きが大きい)

リズムとは

本機には、ジャズやロックなどの音楽ジャンルに合わせた、多数のリズム（自動伴奏）が用意されています。

リズムはドラム音だけでなく、ピアノ、ギター、ストリングス、ベースなどの伴奏音も一緒に鳴ります。

また、リズムにイントロやエンディングを付けたり、フィルインを入れたりすることで、表現力豊かな演奏を簡単に楽しめます。

リズムの流れ



リズムには、オリジナルの伴奏パターンと、華やかな伴奏パターン（バリエーション）の2つがあります。

曲の前半部分は静かなオリジナル、後半の盛り上がる部分でバリエーションの伴奏パターンに変える、といった使いかたをすると効果的です。

コードの押さえかた

鍵盤でコードを弾くと、弾いたコードに従ってリズムが鳴ります（図の場合は●印でCと認識します）。



また、コードの構成音をすべて押さえなくても、簡単な指使いでコードを指定することができます（図の場合は★印でCと認識します）。

詳細は、「スプリット・オン時のコード認識方法を設定する」（P.12）、巻末の「コードの押さえかた一覧」をご覧ください。



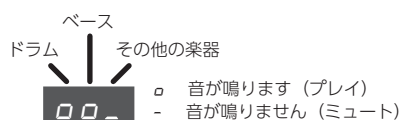
[◀◀ (バリエーション)] [▶▶ (イントロ/エンディング)] [▶/■ (スタート/ストップ)] ボタンのはたらき

リズムの再生/停止をする	[▶/■ (スタート/ストップ)] ボタンを押す。
イントロを付ける	[▶▶ (イントロ/エンディング)] ボタンをオンにしてからリズムを再生する。
エンディングを付ける	リズム演奏中に [▶▶ (イントロ/エンディング)] ボタンをオンにする。 エンディングを演奏して停止します。
リズムに変化を付ける	[◀◀ (バリエーション)] ボタンを押す。 オフ シンプルな伴奏パターンが演奏されます。 オン より華やかな伴奏パターンが演奏されます。
バリエーションを変えるときにフィルインを入れる (Auto Fill)	[◀◀ (バリエーション)] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押して「On」にしてから、バリエーションを変える。 フィルインとは 曲の節目に即興的に入れる短いフレーズのことを「フィルイン」といいます。
演奏と同時にリズムを再生する (Sync)	[リズム] ボタンを押す。 鍵盤を弾くと同時にリズムが鳴り始めます。 Sync

ドラム音だけなど特定のパートだけを鳴らす

1. [▶/■ (スタート/ストップ)] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押して、ミュート設定を選ぶ。
ボタンを押すたびに、ドラム、ベース、その他の楽器のプレイ（再生）/ミュート（消音）の組み合わせが変わります。

リズム・パートのプレイ/ミュート状態の画面表示



ご注意!

リズムによっては、ベース・パートでもその他の楽器の音が鳴るものがあります。

演奏を録音する



演奏を録音することができます。

録音した演奏を再生して自分の演奏を確認したり、録音した演奏に合わせて鍵盤でメロディーを演奏したりすることもできます。

録音前の準備

1. 演奏する音色を選びます (P.2)。
2. 必要に応じて、メトロノームを鳴らします。
[メトロノーム] ボタンを押します。
メトロノームを鳴らしながら、曲のテンポと拍子を設定します (P.3)。

リズムを鳴らすとき

3. リズム伴奏に合わせて演奏する場合は、[リズム] ボタンを押します。
リズムやテンポの設定をします (P.5)。

リズムを鳴らさないとき

3. [曲] ボタンを押して点灯させます。

録音待機状態にする

4. [曲] ボタンを押しながら [リズム] ボタンを押します。
[曲] ボタンと [リズム] ボタンが点灯し、録音待機状態になります。

メモ

録音を中止する（録音待機状態から抜ける）場合は、もう一度 [曲] ボタンを押しながら、[リズム] ボタンを押します。

録音を開始する

5. [▶/■] ボタンを押して、録音を始めます。
2 小節のカウント音が鳴ってから、録音が始まります。
カウント中は、ディスプレイに小節数が「-2」「-1」と表示されます。

メモ

録音待機にしてから、本機を演奏しても録音できます。

録音を止める

6. [▶/■] ボタンを押して、録音を停止します。
もう一度 [▶/■] ボタンを押すと、録音した曲を聴くことができます。

保存先を選ぶ

7. [-] [+] ボタンで保存先を選び、[メトロノーム] ボタンを押します。

U (User) U.01 ~ U.10
n (USB) n.01 ~ n.99

U.01

録音データがない曲（空の曲）

- 曲番号が小文字の「u」で表示（User メモリー）
- 曲番号が小文字の「n」で表示（USB メモリー）
- 点表示なし

U.01

録音データがある曲

- 曲番号が大文字の「U」で表示（User メモリー）
- 曲番号が小文字の「n」で表示（USB メモリー）
- 点表示あり

メモ

[曲] ボタンを押しながら [リズム] ボタンを押すと、保存をキャンセルすることができます。

ご注意！

データがある曲（曲番号が大文字の「U」または「n」）を選んで保存した場合、以前録音したデータは消えてしまいます。

※ 曲の保存中はディスプレイに「o」マークが回転するアニメーションが数秒間表示されます。この間は電源を切らないでください。保存された曲が失われることがあります。

録音した曲を消去したいときは？

以下の方法で無音の曲を録音すれば、曲を消去することができます。

1. [曲] ボタンを押します。
2. [曲] ボタンを押しながら、[リズム] ボタンを押します。
3. [▶/■] ボタンを押して 2 小節のカウント音を聴いたあと、鍵盤を弾かずに [▶/■] ボタンを押します。
4. 消去したい曲番号を選び、[メトロノーム] ボタンを押します。

無音の録音が終了して、曲が消去されます。

USB メモリー（別売）の曲を再生する

USB メモリーを接続する

ご注意！

- USB メモリーに多数の曲ファイルなどがある場合、読み込みに時間がかかることがあります。
- ファイル名には半角の英数字（1 バイト）を使ってください。

1. パソコンを使って、USB メモリー（別売）にお気に入りの曲をコピーします。

本機は、USB メモリーにある SMF（スタンダード MIDI ファイル）、オーディオ・ファイル（WAV）を再生することができます。

再生可能なフォーマット

種類	説明
SMF	SMF フォーマット 0、1
WAV	WAV 形式、44.1kHz、16 ビット・リニア

2. 本機の USB MEMORY 端子に USB メモリーを接続します。

再生する

1. [曲] ボタンを押します。
2. [-] [+] ボタンで、曲を選びます。

7.01

メモ

- オーディオ・ファイル（WAV ファイル）を選んだ場合、ドットが最後の数字のあとに表示されます。

7.02

USB メモリー内のファイルが表示されます。「7」は、USB メモリーを表しています。番号は自動的に付けられます。あとでファイルを追加または削除する場合は、自動的に番号を付け直します。

- USB メモリー内のすべてのファイルは、「7」で始まります。
- [-] [+] ボタンを押して「U」または「D」が表示される場合は、内蔵メモリーのファイルを表しています。

3. [▶/■] ボタンを押して、選んだ曲を再生します。
ディスプレイには、現在再生している SMF の小節番号を表示します。
WAV ファイルの場合は、再生経過時間を表示します。

1.01

(1 分 1 秒経過時)

中央に定位する音を小さくして再生する

WAV ファイルを再生しているときに、中央に定位する音を小さくすることができます（センター・キャンセル）。

1. 曲を選んでいるときに、[▶/■] ボタンを押しながら [-] [+] ボタンを押して「07」にします。

ご注意！

曲によっては、中央で鳴っている音が完全に消えなかったり、音質が変わったりすることがあります。

USB メモリーについて

新しい USB メモリーを使う場合は、まず本機で初期化（フォーマット）してください。

ご注意！

- 本体の電源を入れたまま、USB メモリーの抜き差しをしないでください。本体や USB メモリー内のデータが失われる可能性があります。
- 市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。

USB メモリーをフォーマットする

USB メモリーに保存されている内容をすべて初期化（フォーマット）することができます。

ご注意！

- フォーマットすると、USB メモリーに保存されている内容はすべて消えてしまいます。
- 新しい USB メモリーを最初に本機で使うときは、あらかじめ USB メモリーをフォーマットする必要があります。

1. フォーマットする USB メモリーを USB MEMORY 端子につなぎます。

2. [曲] ボタンを押しながら電源を入れます。

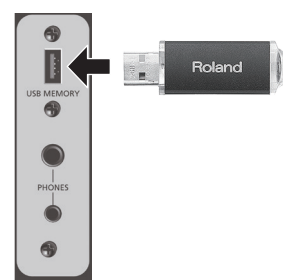
ディスプレイに「Sur」と表示されるまで [曲] ボタンを押します。
中止する場合は [▶] ボタンを押します。

3. フォーマットを実行する場合は [▶/■] ボタンを押します。

ボタンに付いた LED がすべて点灯すると完了です。

4. 電源を入れ直します。

本体底面



各部の名称とはたらき

M このアイコンがある項目は、メモリー・バックアップ (P.11) で設定を保存できます。

フロント・パネル

音量やバランスを調節する (ボリューム・ボタン)

全体の音量

ボリューム・ボタンで音量を調節する。

曲/リズムと鍵盤の音量バランス (曲のバランス)

M

[曲] ボタンまたは [リズム] ボタンを押しながら、ボリューム・ボタンで調節します。

曲音量—手弾き音量
91 ~ 99 ~ 19
(曲が大きい) (同じ大きさ) (手弾きが大きい)

デュアル音色のバランス (デュアル・バランス)

M

デュアルがオンのときに有効です。

ピアノ音色の音量—その他音色の音量
91 ~ 99 ~ 19
(ピアノが大きい) (同じ大きさ) (その他が大きい)

[ピアノ] ボタンと [その他] ボタンを押しながら、ボリューム・ボタンで調節します。

スプリット音色のバランス (スプリット・バランス)

M

スプリットがオンのときに有効です。

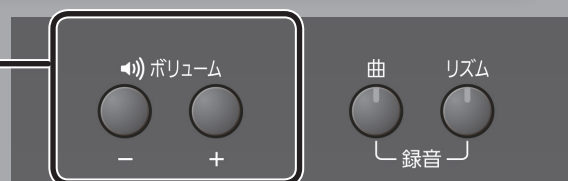
左手音量—右手音量
91 ~ 99 ~ 19
(左手音色が大きい) (同じ大きさ) (右手音色が大きい)

[スプリット] ボタンを押しながら、ボリューム・ボタンで調節します。

画面の見かた (ディスプレイ)

音色番号、曲番号、小節数、テンポ、選んだ機能や設定値などを表示します。

音色番号	ピアノ	1
	その他	1
テンポ		108
小節		1
曲番号	内蔵曲	201
	ユーザー	001
	USB メモリー	001
リズム		1-1



※ その他のボタンの操作方法は、「操作ガイド」(P.2) ~ (P.7) をご覧ください。

[ON] (電源) スイッチ

電源をオン/オフします (P.10)。

本機は演奏や操作をやめてから 30 分経過すると、自動的に電源が切れます (工場出荷時の設定)。

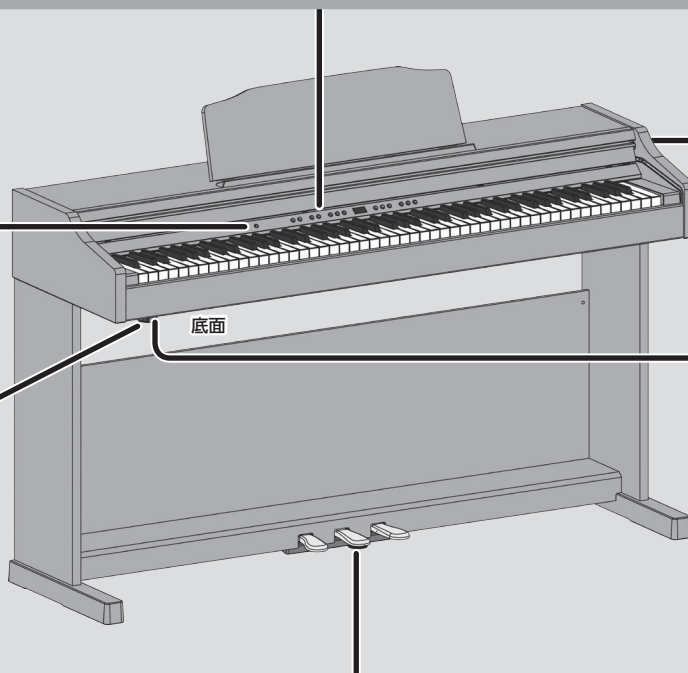
オート・オフで電源が切れてから再び電源を入れるときは、[ON] (電源) スイッチを入れ直してください。

自動で電源を切る必要がない場合は、「一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (オート・オフ)」(P.12) に記載の手順で「オート・オフ」を「OFF」に設定してください。



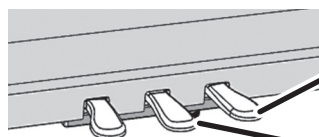
ヘッドホン・フック

ヘッドホンを使わないときは、ヘッドホン・フックにヘッドホンをかけておくことができます。



背面

底面



アジャスター

ダンパー・ペダル

音に余韻を与えたいときに使います。このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音が切れずに長い余韻が続きます。踏みかたで余韻の深さを調節することができます。アコースティック・ピアノでは、ダンパー・ペダルを踏んだときに、弾いた鍵盤の音が他の弦に共鳴して豊かな響きと広がり加わります。本機ではこの共鳴音 (ダンパー・レゾナンス) を再現しています。

ソステヌート・ペダル

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけに余韻を与えます。

ソフト・ペダル

音に柔らかさを与えたいときに使います。このペダルを踏んだまま鍵盤を弾くと、通常同じ強さで弾いたときの音よりも柔らかい音が出ます。アコースティック・ピアノの左側のペダルと同じはたらきです。ペダルを踏む深さによって、音の柔らかさが微妙に変わります。

ペダルボードの下にあるアジャスターを下げて、床に当たるように調節します。カーペットの上などに設置するときは、床面を少し強く押し付けるぐらいに下げてください。

値を変える ([-] [+] ボタン)

[-] [+] ボタンで値を変えます。

連続して値を変える	[+] ボタンまたは [-] ボタンを押し続ける。
値を早く変える	[+] ボタンを押しながら [-] ボタンを押すと、値が早く大きくなる。 [-] ボタンを押しながら [+] ボタンを押すと、値が早く小さくなる。
値を初期値に戻す	[+] ボタンと [-] ボタンを同時に押す。

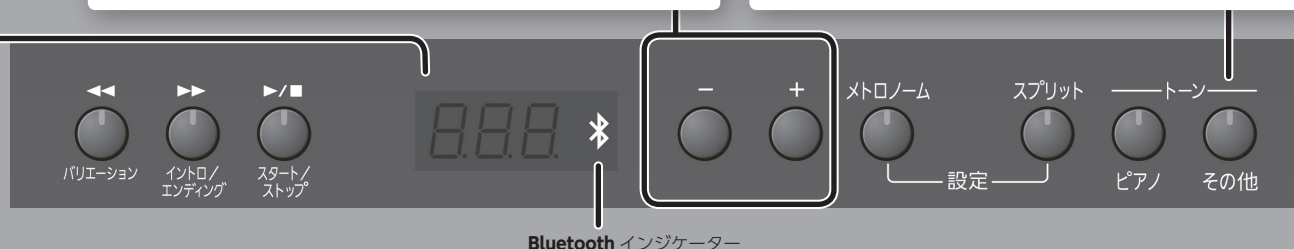
ボタンが効かないようにする (パネル・ロック)

パネル・ロックをすると、[ボリューム] 以外のボタンが効かなくなります。誤ってボタンを押して音色や設定が変わってしまうことを防ぐことができます。

【その他】 ボタンを長押しします。

パネル・ロックを解除する

もう一度【その他】 ボタンを長押しします。



リア・パネル (機器をつなぐ)

Output (アウトプット) 端子

アンプ内蔵スピーカーなどをつなぐと、それらから本機の音を鳴らすことができます。



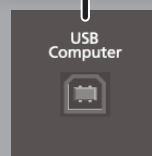
Input (インプット) 端子

オーディオ・プレーヤーなどの機器をステレオ・ミニ・プラグでつなぐと、つないだ機器の音の本機から鳴ります。音量はつないだ機器 (オーディオ・プレーヤーなど) で調節してください。



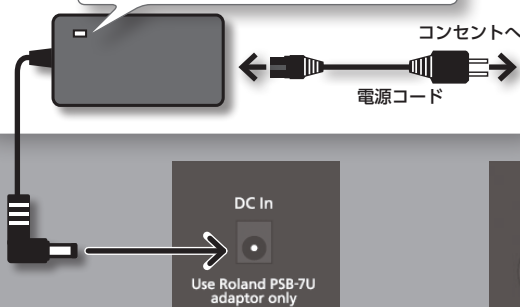
USB Computer 端子

市販の USB ケーブルで本機の USB Computer 端子とお使いのパソコンの USB 端子をつなぐと、MIDI に対応したソフトウェアと組み合わせて音楽制作、編集などができます。



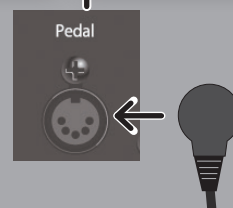
DC In 端子

AC アダプターは、インジケーター (図参照) のある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。



Pedal 端子

専用スタンドのペダル・コードをつなぎます。



※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

底面 (ヘッドホンなどをつなぐ)

PHONES 端子

本機には PHONES 端子が 2 つあるので、2 人で同時にヘッドホンを使うことができます。
ヘッドホン使用時でもピアノ本体から音が聞こえるようなヘッドホン 3D アンビエンス効果がかかります (P.11)。



USB MEMORY 端子

USB メモリーを接続します (P.7)。

市販の USB メモリーまたはローランドが販売している USB メモリーをお使いください。ただし、市販されている USB メモリーすべての動作を保証するものではありません。



演奏する前に

蓋を開ける／閉める

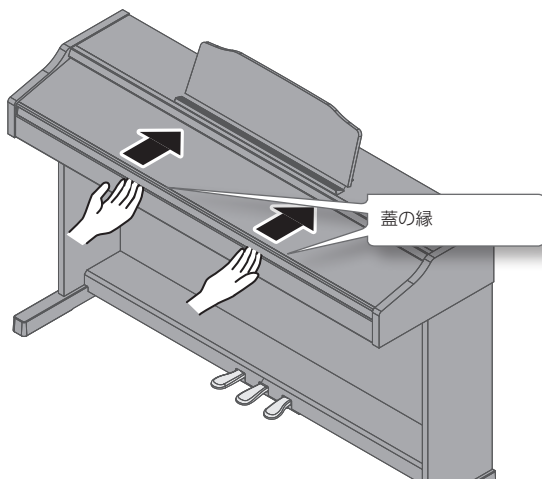
蓋は、必ず両手で開け閉めしてください。

蓋を開ける

1. 蓋の縁を両手で持ち上げ、奥に向かって押します。

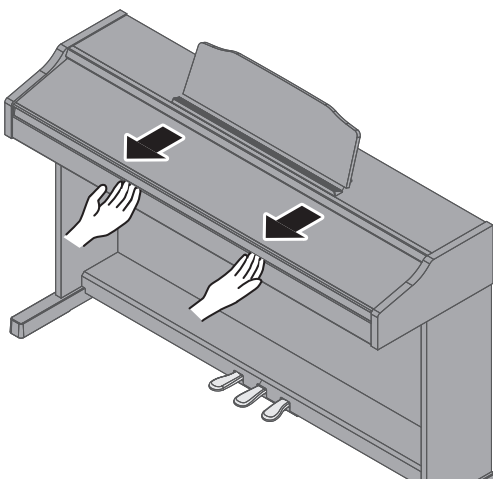
ご注意！

- ・蓋の上に物（紙や金属など）を置いたまま、蓋を開けないでください。本体の中に入って、取り出せなくなることがあります。



蓋を閉じる

1. 蓋の縁を両手で持ち、静かに手前に引き寄せます。



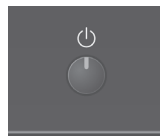
ご注意！

- ・蓋の開け閉めは、可動部と本体の間に指をはさまないように注意してください。お子様のいる場所で使用する場合は、必ず大人のかたが監視／指導してください。
- ・ピアノを移動するときは、危険防止のため必ず蓋を閉じてください。
- ・譜面立てを使用するときは、譜面立てに強い力を加えないでください。
- ・蓋の上に物（紙や金属など）を置いたまま、蓋を開けないでください。本体の中に入って、取り出せなくなることがあります。

電源を入れる／切る

電源を入れる

1. [⏻]（電源）スイッチをオンにします。



数秒後には、鍵盤を弾いて音を出せるようになります。

2. ボリューム・ボタンで音量を調節します。

ボリューム [+] ボタンを押すと音が大きくなり、ボリューム [-] ボタンを押すと音が小さくなります。

本体スピーカー使用時はスピーカーの音量、ヘッドホン使用時（ヘッドホン接続時）はヘッドホンの音量を調節することができます。それぞれの設定値は自動的に保存されます。

メモ

本機は小さな音量にしても演奏の強弱がはっきりと聴き取れ、大きな音量にしてもクリアな音のまま鳴るように設計されています。

電源を切る

1. [⏻]（電源）スイッチをオフにします。

基準ピッチを合わせる

他の楽器とアンサンブルするときなど、本機の基準ピッチを他の楽器に合わせることができます（マスター・チューニング）。M

1. [いろいろな設定をする（ファンクション・モード）]（P.11）で「F07」を選んで [▶/■] ボタンを押します。

2. [-] [+] ボタンで基準ピッチを合わせます。

例：

基準ピッチ	画面
440.0Hz（初期値）	40.0
442.0Hz	42.0

[▶/■] ボタンを押すと元の画面に戻ります。

3. 設定を保存するときは、メモリー・バックアップ（P.11）を実行します。

4. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜けます。

🎵 いろいろな設定をする（ファンクション・モード）

ファンクション・モードの基本操作

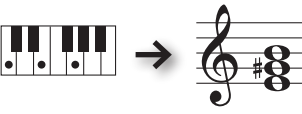
1. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押します。
ファンクション・モードになります。
2. [-] [+] ボタンで設定する機能を選び、[▶/■] ボタンを押して設定画面を表示させます。
3. [-] [+] ボタンで、設定を変えます。
[▶/■] ボタンを押すと元の画面に戻ります。
4. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜けます。

メモリー・バックアップ

本機の設定は、電源を切ると消えて初期設定に戻りますが、電源を入れ直しても設定が変わらないように保存しておくことができます。
本文中で「**M**」マークの付いている項目は、メモリー・バックアップで設定を保存できます。

1. ファンクション・モードで「F19」（メモリー・バックアップ）を選んで、[▶/■] ボタンを押します。

各ファンクション設定

画面	設定値	説明
F01	F (固定)、 L2 (非常に軽い)、 L1 (軽い)、 N (標準)、 H1 (重い)、 H2 (非常に重い)	鍵盤のタッチ感を調節する (キー・タッチ) M 鍵盤を弾いたときの手応え (キー・タッチ) を変えます。演奏者の弾く強さに合わせて調節することができます。
F02	1 (ペア)、 2 (セパレート)	ツインピアノの音の鳴りかたを変える (ツインピアノ・モード) M ツインピアノがオンのときの音の鳴りかたを設定します。 3 ページ
F03	OFF、On	鍵盤を 2 つに分けて 2 人で演奏する (ツインピアノ) ツインピアノのオン/オフを設定します。 3 ページ
F04	1 (鍵盤 + 曲)、 2 (鍵盤のみ)、 3 (曲のみ)	トランスポーズする対象を選ぶ (トランスポーズ・モード) M トランスポーズする対象を選びます。曲と鍵盤を同時に変えるだけでなく、曲の調だけを変えたり、鍵盤の調だけを変えたりできます。
F05	-6 ~ 0 ~ 5 [半音]	鍵盤や曲を移調する (トランスポーズ) トランスポーズの値を設定します。 たとえば、ホ長調 (E) の曲をハ長調 (C) の鍵盤の位置で弾く場合は、トランスポーズを「4」に設定します。 ドミソと弾くと→ミソ#シと鳴る  ※ 設定値を「0」にすると、トランスポーズはオフになります。
F06	OFF、On	ピアノ音にヘッドホン 3D アンビエンス効果をかける (ヘッドホン 3D アンビエンス) M ヘッドホン使用時でも、ピアノ本体から音が聞こえるようなヘッドホン 3D アンビエンス効果をかけることができます。 ※ ヘッドホン 3D アンビエンス効果はピアノ音色以外には効きません。 オン ヘッドホン 3D アンビエンス効果がオンになります。 オフ ヘッドホン 3D アンビエンス効果がオフになります。
F07	15.3 (415.3) ~ 40.0 (440.0) ~ 55.2 (466.2) [Hz]	他の楽器と音の高さを合わせる (マスター・チューニング) M 本機の基準ピッチ (中央ラの音の高さ) を設定します。 10 ページ
F08	1, 2	調律の手法を変える (ストレッチ・チューニング) M 高音域はより高く、低音域はより低いなどのピアノ独特の調律手法 (ストレッチ・チューニング) のタイプを切り替えます。 通常は 1 (標準的な調律曲線) でお使いください。

いろいろな設定をする（ファンクション・モード）

画面	設定値	説明
F 09 F 10	1 (ソステヌート、ソフト)、 2 (スタート/ストップ)、 3 (イントロ/エンディング)、 4 (パリエーション)、 5 (フィル・イン)、 6 (リーディング・ベース)	ペダルのはたらきを変える 中央ペダル (F 09)、左ペダル (F 10) の機能を割り当てます。 1 → ソステヌート・ペダルの機能 (F 09)、ソフト・ペダルの機能 (F 10) 2 → ▶/■ (スタート/ストップ) ボタンと同じ機能 3 → イントロ/エンディング機能のオン/オフ (▶▶ (イントロ/エンディング) ボタンと同じ機能) 4 → パリエーションのオン/オフ (◀◀ (パリエーション) ボタンと同じ機能) 5 → フィル・イン 6 → リーディング・ベース機能のオン/オフ
F 11	OFF、On	ベース・パートの動作を設定する (リーディング・ベース) (M) 押さえたコードの一番低い音をベース・トーンで鳴らすことを、「リーディング・ベース機能」といいます。 オフ → リズムのベース・パートは和音の根音を鳴らします。たとえば、ミソドの和音 (C メジャー) を演奏すると、ベースはド (C) の音が鳴ります。 オン → ベース・パートは演奏した和音の最低音を鳴らすようになります。ミソドの和音 (C メジャー) を演奏すると、ベースはミ (E) の音が鳴ります。 スプリット機能がオフのときはリーディング・ベースは常にオンになります。
F 12	1 (インテリジェント)、 2 (スタンダード)	スプリット・オン時のコード認識方法を設定する (M) スプリット機能 (P.2) がオンのときのコード認識方法を設定します。 インテリジェント → コードの構成音のすべてを押さなくても、簡単な指使いでコードを鳴らすことができます。コードの押さえかたについては、巻末の「コードの押さえかた一覧」(P.18) をご覧ください。 スタンダード → 通常のコード認識方法です。
F 13	OFF、On	シーケンサーとつないだときの 2 度鳴りを防ぐ (ローカル・コントロール) USB MIDI にソフトウェア音源を接続したときには、この項目を「OFF」に設定します。 ソフトウェア音源のスルー機能がオンに設定されていると、鍵盤を弾いた音が 2 重に重なって聴こえたり、途切れたりします。これを防ぐために鍵盤と内部の音源を切り離すことを、「ローカル・オフ」といいます。 「OFF」に設定すると、鍵盤と内部の音源が切り離された状態になり、鍵盤を弾いても音は鳴りません。
F 14	U.0 1 ~ U.10 (USER 01 ~ 10) n.0 1 ~ n.99 (USB 01 ~ 99)	曲をコピーする (コピー・ソング) 本体に録音した曲を USB メモリーにコピーします。 コピー元の曲番号が表示されるので、 [-] [+] ボタンで選び、 ▶/■ ボタンを押して決定します。 コピー先の曲番号が表示されるので、 [-] [+] ボタンで選び、 ▶/■ ボタンを押して決定します。
F 15	OFF、On	Bluetooth 機能 (M) Bluetooth 機能の On/Off を設定します。 14 ページ
F 16	-P-, -n-, P-n	Bluetooth 譜めくり / MIDI 切り替え (M) Bluetooth 機能で譜めくり機能を使うか、MIDI メッセージの送受信をするかを切り替えます。 -P- → モバイル機器用の譜面表示アプリを操作 (譜めくり) -n- → MIDI メッセージの送受信 P-n → 譜めくり + MIDI メッセージの送受信 14 ページ
F 17	1、2、3	Bluetooth 譜めくりペダル・アサイン (M) お使いの譜面表示アプリのキー操作を本機のペダルにアサインします。 1 → カーソル上/下 2 → Page Up / Page Down 3 → カーソル左/右 15 ページ
F 18	OFF、10、30、240 [分]	一定時間が経つと自動で電源が切れるようにする (オート・オフ) オート・オフの設定をします。 電源が切れる前に、残り時間が点滅表示されます。1 分を切ると、1 秒ずつカウント・ダウンします。 ※ この設定は、変更すると自動的に保存されます。
F 19	なし	設定を保存する (メモリー・バックアップ) (M) 本機の設定は、電源を切ると消えて初期設定に戻りますが、電源を入れ直しても設定が変わらないように保存しておくことができます。 [Sur] と表示され、 ▶▶ ボタン (キャンセル)、 ▶/■ ボタン (実行) で決定します。 11 ページ

工場出荷時の状態に戻す（ファクトリー・リセット）

本機の設定を、お買い上げ時の状態に戻すことができます。この機能を「ファクトリー・リセット」といいます。

ご注意！

「ファクトリー・リセット」をすると、メモリー・バックアップで記憶させたすべての設定と、本体メモリーに録音したすべての曲が消去されます。

1. [メトロノーム] ボタンと [スプリット] ボタンを押しながら、電源を入れます。

ディスプレイに「Sur」と表示されるまでボタンを押し続けます。

中止する場合は [▶▶] ボタンを押します。

2. ファクトリー・リセットを実行する場合は [▶/■] ボタンを押します。

ファクトリー・リセットが完了すると、ディスプレイに「End」と表示されます。

※ ディスプレイに「End」と示されるまでの間は、決して電源を切らないでください。

3. [⏻]（電源）スイッチを押して、電源を入れ直します。

ボリュームの最大値を設定する（ボリューム・リミット）

ボリュームの最大値を設定することができます。誤ってボリューム・ボタンを操作して、必要以上に音量が大きくなってしまふことを防ぐことができます。



1. ボリューム [-] ボタンとボリューム [+] ボタンを押しながら、[-] [+] ボタンを押して設定します。

設定値	20、40、60、80、100
-----	-----------------

メモ

この設定は、変更すると自動的に保存されます。



Bluetooth® (ブルートゥース) 機能を使う



こんなことができます

Bluetooth 機能を使うと、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器（以下、「モバイル機器」と呼びます）と本機が無線でつながり、以下のことができます。

譜めくり機能

本機からモバイル機器用の譜面表示アプリを操作する。

MIDI データの送受信

本機とモバイル機器間で MIDI データをやりとりする。

譜面アプリの譜めくりをペダルで操作する

本機のペダルでモバイル機器用の譜面表示アプリを操作（譜めくり）する設定をします。
ソステヌート・ペダルで次のページ、ソフト・ペダルで前のページに譜めくりできます。

ペアリング済みの iOS デバイスを使うときのご注意

iOS

Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能を切り替えたり、ファクトリー・リセットを実行したあとは、以下の操作が毎回必要です。



① 「RP501R」を解除します。

Bluetooth RP501R
このデバイスの登録を解除

② オフにします。

詳しくは、iOS デバイスの取扱説明書をご覧ください。

1. 接続したいモバイル機器を本機周辺に置きます。

メモ

本機を複数台お持ちの場合、ペアリングする機器のみ電源を入れてください（ほかの機器の電源は切ってください）。

2. ファンクション・モード（[メトロノーム] + [スプリット] ボタン）で [F 15] を選び、[▶/■] ボタンを押します（P.12）。

3. [-] [+] ボタンで [On] を選び、[▶/■] ボタンを押します。

4. [F 16] を選び、[▶/■] ボタンを押します。

5. [-] [+] ボタンで [-P-] を選び、[▶/■] ボタンを押します。

メモ

ここで [P-1] を選べると、譜めくり機能と MIDI の送受信機能を同時に使用できます。
たとえば、譜めくりをペダルで操作しながら、MIDI を受信して本機から鳴らすことができます。

6. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。



メモ

操作説明は iPhone を使った場合の一例です。詳しくは、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

7. モバイル機器の「RP501R」をタップします。

本機とモバイル機器がペアリングされます。ペアリングが成功すると、モバイル機器の「ペアリングされた機器」リストにお使いの機種名（「RP501R」）が追加されます。

メモ

- iOS デバイス（iPhone や iPad）をお使いの場合は、iOS デバイスの画面に「ペアリングの要求」が表示されます。[ペアリング] ボタンをタップしてください。
- モバイル機器の画面に「パス・キー」の入力を要求された場合は 0000（ゼロを 4 つ）を入力してください。

8. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜けます。

モバイル機器にキーボードが表示されなくなったときは

譜めくり機能を使うと、使用するモバイル機器のアプリによってはキーボードが表示されない（キーボードが使えない）ことがあります。

譜めくり機能を使いながら、モバイル機器のキーボードを表示するには、本機の [メトロノーム] ボタンを押しながら [ピアノ] ボタンを押します。

モバイル機器のキーボードを消すには、再度 [メトロノーム] ボタンを押しながら、[ピアノ] ボタンを押します。

ペアリング済みのモバイル機器を接続する

1. 「譜面アプリの譜めくりをペダルで操作する」(P.14) の手順 1 ～ 3、6 の操作をします。

本機とモバイル機器が無線でつながります。

メモ

- 上記の操作で接続ができなかった場合は、モバイル機器の Bluetooth デバイス画面に表示されているモデル名（「RP501R」）をタップしてください。
- 切断するには、本機の Bluetooth 機能 [F 15] を [OFF] にするか、モバイル機器の Bluetooth 機能を「オフ」にします。

2. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜けます。

譜めくり機能の操作キーを変える

お使いの譜面表示アプリによって、譜めくりのキー操作が異なります。本機からどのキーで譜めくり操作をするかを選ぶことができます。

1. ファンクション・モード ([メトロノーム] + [スプリット] ボタン) で [F 17] を選び、[▶/■] ボタンを押します (P.12)。
2. [-] [+] ボタンで設定を選び、[▶/■] ボタンを押します。

表示	設定	説明
1	カーソル上/下	キーボードの [▲] [▼] キーで譜めくりするアプリを使う場合の設定です。
2	Page Up / Page Down	キーボードの [Page Up] [Page Down] キーで譜めくりするアプリを使う場合の設定です。
3	カーソル左/右	キーボードの [◀] [▶] キーで譜めくりするアプリを使う場合の設定です。

3. [メトロノーム] ボタンを押しながら [スプリット] ボタンを押して、ファンクション・モードを抜けます。

MIDI データのやりとりをする

本機とモバイル機器の間で MIDI データの送受信をする設定をします。

ペアリング済みの iOS デバイスを使うときのご注意

iOS

Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能を切り替えたり、ファクトリー・リセットを実行したあとは、以下の操作が毎回必要です。



① 「RP501R」を解除します。

このデバイスの登録を解除

② オフにします。

詳しくは、iOS デバイスの取扱説明書をご覧ください。

1. 接続したいモバイル機器を本機周辺に置きます。

メモ

本機を複数台お持ちの場合、ペアリングする機器のみ電源を入れてください (ほかの機器の電源は切ってください)。

2. ファンクション・モード ([メトロノーム] + [スプリット] ボタン) で [F 15] を選び、[▶/■] ボタンを押します (P.12)。
3. [-] [+] ボタンで [Off] を選び、[▶/■] ボタンを押します。

4. [F 16] を選び、[▶/■] ボタンを押します。
5. [-] [+] ボタンで [-P-] を選び、[▶/■] ボタンを押します。
6. モバイル機器の Bluetooth 機能をオンにします。



メモ

操作説明は iPhone を使った場合の一例です。詳しくは、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

7. モバイル機器のアプリ (GarageBand 等) の設定で、本機と接続をします。

ご注意!

モバイル機器の Bluetooth 設定に表示されている「RP501R」をタップしないでください。

Bluetooth 機能に関するトラブル

症状	確認事項/対策
端末の Bluetooth デバイスに、本機が現れない	Bluetooth 機能が「Off」になっていませんか?
	Bluetooth 機能 (F 15) が [On]、 Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 16) が [-P-] の場合 「RP501R」というデバイスが現れます。
	Bluetooth 機能 (F 15) が [On]、 Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 16) が [-P-] の場合 GarageBand などのアプリ内の設定から確認できます。
Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 15) が [On]、 Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 16) が [-P-] の場合 「RP501R」というデバイスが現れます。また、GarageBand などのアプリ内の設定から確認できます。	
Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 15) を切り替えると、モバイル機器との接続ができなくなることがあります。	モバイル機器に登録されている「RP501R」を削除してから、モバイル機器の Bluetooth 機能をオフ → オンし、接続し直してください。
Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 16) を切り替えると、モバイル機器との接続ができなくなることがあります。	モバイル機器に登録されている「RP501R」を削除してから、モバイル機器の Bluetooth 機能をオフ → オンし、接続し直してください。
MIDI で接続できない	モバイル機器の Bluetooth 設定ではなく、GarageBand などのアプリ内の設定から接続してください。
ペアリングできない	本機の Bluetooth 機能は、最初の接続時にモバイル機器側でデバイスを選んでペアリングします。本機からペアリング開始の操作は必要ありません。
譜めくり機能と MIDI 機能を同時に使用できない	Bluetooth 譜めくり / MIDI 機能 (F 16) を、[-P-] に設定してください。
ペアリングしたモバイル機器がつながらない	接続してもすぐに切れてしまうときや、譜めくり機能と MIDI データの送受信機能を切り替えたときは、 Bluetooth デバイスの Bluetooth スイッチを一度オフにし再度オンにすると、接続される場合があります。
モバイル機器にキーボードが表示されなくなった (使えなくなった)	譜めくり機能を使うと、使用するモバイル機器のアプリによってはキーボードが表示されない (キーボードが使えない) ことがあります。 譜めくり機能を使いながら、モバイル機器のキーボードを表示するには、本機の [メトロノーム] ボタンを押しながら [ピアノ] ボタンを押します。 モバイル機器のキーボードを消すには、再度、[メトロノーム] ボタンを押しながら [ピアノ] ボタンを押します。

故障かな?と思ったら

現象	原因／対策
ヘッドホンを使って消音しても、鍵盤を弾くときにゴトゴトと音が鳴る	本機は、アコースティック・ピアノのタッチ感をよりリアルに再現するために、ハンマー・アクション鍵盤を採用しています。そのため、鍵盤を弾くと、アコースティック・ピアノと同様にハンマーのゴトゴトといった音が鳴ります。本機はピアノの音量が調節できるためハンマーの音が目立つことがありますが、故障ではありません。床や壁への振動が気になる場合は、ピアノ本体を壁から離して設置したり、市販のピアノ用防振マットを敷いたりすることで、それらを軽減できることがあります。
電源が勝手に切れる	本機は演奏や操作をやめてから 30 分経過すると、自動的に電源が切れます（工場出荷時の設定）。自動で電源を切る必要がない場合は、「オート・オフ」の設定をオフにしてください（P.12）。
電源が入らない	AC アダプターが正しく接続されていますか？（P.9）
ペダルが効かない、または効きっぱなしになる	ペダルが正しく接続されていますか？ ペダル端子にしっかり接続してください（P.9）。
	電源を入れたまま本体からペダル・コードを抜くと、ペダルの効果がかかったままになることがあります。 本体の電源を切ってからペダル・コードの抜き差しをしてください。
	ツインピアノがオンになっていませんか？ ツインピアノをオンにすると、右ペダルは右側鍵盤のみ、左ペダルは左側鍵盤のみに効くようになります（P.3）。
	ペダルのはたらき（ <i>F09</i> 、 <i>F10</i> ）を変えていませんか？（P.12） 譜めくり機能を使っていませんか？（P.14）
音量が上がらない	ボリューム・リミットの設定で最大音量を小さくしていませんか？ ボリューム・リミットで設定した音量より大きな音量にすることはできません。ボリューム・リミットの設定を変更してください（P.13）。
Input 端子に接続した機器の音量が小さい	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？ 抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。
音が出ない／曲を再生しても音が出ない	本機の音量や、接続している機器の音量が最小になっていませんか？
	ヘッドホンを接続していませんか？ ヘッドホン端子に変換プラグが残っていませんか？ ヘッドホン端子にヘッドホンなどを接続しているときは、スピーカーから音が出ません（P.9）。
	ローカル・オフの設定になっていませんか？ ローカル・コントロールがオフに設定されていると、鍵盤を弾いても音は鳴りません。ローカル・コントロールをオンに設定してください（P.12）。
弾いた音が全部鳴らない	最大同時発音数は 128 音です。デュアル音色（P.2）のときや、曲と一緒に演奏しているとき、ダンパー・ペダルを多用しているときは、演奏情報が発音数を超えてしまい、弾いた音が抜けてしまうことがあります。

こんな表示が出たら（メッセージ一覧）

表示	意味
E.01	保存しようとしたミュージックデータは読み込み専用です。保存することはできません。
E.02	書き込み中にエラーが発生しました。外部メディアのプロテクト・タブが「プロテクト（書き込み禁止）」の位置になっていたり、外部メディアが初期化されていなかったりする可能性があります。
E.10	USB メモリーが挿入されていません。USB メモリーを挿入してから、もう一度操作してください。
E.11	保存先の空き容量が足りません。別の USB メモリーを挿入するか、不要なデータ（曲データ）を削除して、もう一度操作してください。
E.14	読み込み中にエラーが発生しました。USB メモリーが破損している可能性があります。別の USB メモリーを挿入して、もう一度操作してください。または、USB メモリーを初期化してください（P.7）。
E.15	ファイルを読むことができません。本機が対応していないデータ形式です。
E.16	曲の再生にデータの読み出しが間に合いません。数秒待ってから、もう一度 ▶/■ ボタンを押すと、曲を再生できることがあります。
E.18	対応していないオーディオ・フォーマットです。WAV 形式、44.1kHz、16 ビット・リニアのオーディオ・ファイルを使用してください。

現象	原因／対策
鍵盤や曲の音程、ピッチがずれている	トランスポーズの設定をしていませんか？（P.11）
	マスター・チューニングの設定は適切ですか？（P.10） ピアノの音は、高音域はより高く、低音域はより低くする独特の手法で調律されています（ストレッチ・チューニング）。そのため、ピッチがずれているように感じるがありますが、アコースティック・ピアノと同等の本来の聴こえかたです。
鍵盤を弾くと、2つの音が鳴る	デュアル音色を選んでいませんか？（P.2） 外部にシーケンサーを接続する場合は、本機をローカル・オフの状態にしてください。または、シーケンサーのソフト・スルーの設定をオフにしてください（P.12）。
	本機のピアノ音は、アコースティック・ピアノ本来の興行き感や響きを忠実に再現しているため、アンビエンス効果をオフにしても残響音として聴こえることがあります。
高音部で、ある鍵盤から音が急に変わる	アコースティック・ピアノでは、高音部の 1.5 オクターブ程度の範囲はダンパー・ペダルに関係なく音が最後まで延びます。また音色も違ってきます。 本機は、こうしたアコースティック・ピアノの動作を忠実に再現しています。また、本機では、ダンパー・ペダルの影響を受けない範囲はトランスポーズの設定によって変化します。
「キーン」という音がする	ヘッドホンで聴こえる場合： きらびやかで粒立ちがはっきりしている一部のピアノ音色では、高調波成分が多く含まれているため、金属的な響き加わって聞こえることがあります。これはピアノ本来の特徴を忠実に再現しているためで、故障ではありません。 この響きは、アンビエンス効果を深くとるとより耳につきやすくなりますので、アンビエンス効果を浅くすることで減少する場合があります。
	ヘッドホンからは聴こえない場合： 別の原因（本体の共鳴など）が考えられます。お買い上げ店またはローランドお客様相談センターにお問い合わせください。
	音量を大きくすると、演奏方法によっては音がひずむことがあります。その場合は、音量を小さくしてください。
音がおかしい／ビリビリと共鳴する	ヘッドホンでは聴こえない場合： 大きな音で演奏するとスピーカーや本機付近のものが共鳴することがあります。部屋の蛍光灯やガラス戸などが共鳴することもあります。特に低音鍵になるほど、音量が大きいくほど起こりやすくなります。共鳴を抑えるには、次のことにご注意ください。 ・ 本機を壁などから 10 ～ 15cm 離して設置する。 ・ 音量を抑える。 ・ 共鳴している器具などから遠ざける。
	ヘッドホンで聴こえる場合： 別の原因が考えられます。お買い上げ店またはローランドお客様相談センターにお問い合わせください。

表示	意味
E.30	本機の記憶容量が足りません。
E.40	USB MIDI から一度にたくさん MIDI データが送られてきたため、本機で処理できません。 USB MIDI から送信されるデータ量を減らしてください。
E.51	システムに異常がある可能性があります。 操作をやりなおしてください。何度か操作をやりなおしてもこの表示が出る場合は、ローランドお客様相談センターにご相談ください。
E.65	USB メモリー端子に過大な電流が流れました。 USB メモリーに異常がないか確認したあと、電源を入れ直してください。
- - -	パネル・ロック機能がオンの状態です（P.9）。
PU	曲を再生するとき、弱起の場合に表示されます。
数字が点滅	オート・オフ機能によって電源が切れる前に残り時間が点滅表示します。

音色一覧

[ピアノ] ボタン

No.	音色名
1	コンサート・ピアノ
2	バラード・ピアノ
3	ブライト・ピアノ

No.	音色名
4	マジカル・ピアノ
5	ピアノ+ストリングス
6	ピアノ+パッド

No.	音色名
7	ピアノ+クワイア
8	ロック・ピアノ
9	ラグタイム・ピアノ

No.	音色名
10	チェンバロ
11	チェンバロ 8'+4'

[その他] ボタン

No.	音色名
1	トレモロ Tine EP
2	ポップ E. ピアノ
3	Tine E. ピアノ
4	FM E. ピアノ
5	ブライト FM EP
6	ビブラート Reed EP
7	クラビ
8	フェイザー Tine EP
9	ビブラフォン
10	マリンバ
11	チェレスタ

No.	音色名
12	アイランド・マレット
13	モーニング・ライト
14	スロー・ストリングス
15	リッチ・ストリングス
16	Orch. ストリングス
17	ディケイ・ストリングス
18	ハープ
19	ピチカート
20	チャーチ・オルガン 1
21	チャーチ・オルガン 2
22	コンボ・オルガン

No.	音色名
23	バラード・オルガン
24	フル・ストップ
25	メロウ・パー
26	アコーディオン
27	エアリアル・クワイア
28	ジャズ・スカット
29	フィーメール Aahs
30	メイル Aahs
31	ディケイ・クワイア
32	Thum ボイス
33	ソフト・パッド

No.	音色名
34	クワイア・パッド
35	ナイロン弦ギター
36	スチール弦ギター
37	ジャズ・ギター
38	アコースティック・ベース
39	ベース+シンバル
40	フィンガー・ベース
41	GM2 音色
305	

リズム一覧

ジャンル	No.	リズム名
ポップ	1-1	8 ビート ポップ
	1-2	フランク ポップ
	1-3	8 ビート スロー
	1-4	16 ビート スロー
	1-5	ポップ R&B
	1-6	シャッフル
	1-7	ギターバンド
	1-8	アンブラグド
	1-9	ゴスペル
バラード / ロック	2-1	イージー バラード
	2-2	16 ビート バラード
	2-3	スローロック
	2-4	アンブラグド バラード
	2-5	ロック
	2-6	16 ビートロック
	2-7	フォークロック
ディスコ / クラブ	3-1	70's ディスコ

ジャンル	No.	リズム名
ディスコ / クラブ	3-2	ジャミロ ダンス
	3-3	ディスコ
	3-4	サヴァイヴ ディスコ
	3-5	テクノポップ
	3-6	ハウス
	3-7	ベイビービート
	3-8	ラップ
	3-9	ヒップホップ
ジャズ/ ブルース	4-1	スイング
	4-2	スロー スイング
	4-3	ビッグバンド
	4-4	ジャズワルツ
	4-5	ソウル
	4-6	ブルース
	4-7	ロックンロール
	4-8	ブギ
	4-9	ロックン スロー
トラディ ショナル	5-1	ワルツ
	5-2	ウイナ ワルツ

ジャンル	No.	リズム名
トラディ ショナル	5-3	スローワルツ
	5-4	ボルカ ディスコ
	5-5	タンゴ
	5-6	フォックス トロット
	5-7	クイック ステップ
	5-8	ツイスト
	6-1	ルンバ
	6-2	ビギン
ラテン	6-3	チャチャ
	6-4	マンボ
	6-5	サルサ
	6-6	アコース ティック サンバ
	6-7	ジャズボサ
	6-8	ファスト ボサノバ
	6-9	サンバ
ワールド	7-1	ポップレゲエ
	7-2	レゲエ
	7-3	ゴスペル シャッフル
	7-4	スカ

ジャンル	No.	リズム名
ワールド	7-5	ジャーマン ボルカ
	7-6	ジャーマン ワルツ
	7-7	マーチ 6/8
	7-8	マーチ 4/4
	7-9	オーケストラ ワルツ
カント リー	8-1	カントリー ロック
	8-2	ブルーグラス
	8-3	カントリー
	8-4	カントリー バラード
	8-5	カントリー ビート
	8-6	カントリー ポップ
ピアニス ト	9-1	ピアノ アルペジオ
	9-2	ピアノポップ
	9-3	ピアノボルカ
	9-4	ピアノワルツ
	9-5	ピアノブギ
	9-6	ピアノ ラグタイム

コードの押さえかた一覧

C	C#	D	E $\flat$	E	F
CM7	C#M7	DM7	E $\flat$ M7	EM7	FM7
C7	C#7	D7	E $\flat$ 7	E7	F7
Cm	C#m	Dm	E $\flat$ m	Em	Fm
Cm7	C#m7	Dm7	E $\flat$ m7	Em7	Fm7
CmM7	C#mM7	DmM7	E $\flat$ mM7	EmM7	FmM7
Cdim	C#dim	Ddim	E $\flat$ dim	Edim	Fdim
Cm7 (b5)	C#m7 (b5)	Dm7 (b5)	E $\flat$ m7 (b5)	Em7 (b5)	Fm7 (b5)
Caug	C#aug	Daug	E $\flat$ aug	Eaug	Faug
Csus4	C#sus4	Dsus4	E $\flat$ sus4	Esus4	Fsus4
C7sus4	C#7sus4	D7sus4	E $\flat$ 7sus4	E7sus4	F7sus4
C7/13	C#7/13	D7/13	E $\flat$ 7/13	E7/13	F7/13

F#	G	A $\flat$	A	B $\flat$	B
F#M7	GM7	A $\flat$ M7	AM7	B $\flat$ M7	BM7
F#7	G7	A $\flat$ 7	A7	B $\flat$ 7	B7
F#m	Gm	A $\flat$ m	Am	B $\flat$ m	Bm
F#m7	Gm7	A $\flat$ m7	Am7	B $\flat$ m7	Bm7
F#mM7	GmM7	A $\flat$ mM7	AmM7	B $\flat$ mM7	BmM7
F#dim	Gdim	A $\flat$ dim	Adim	B $\flat$ dim	Bdim
F#m7 (b5)	Gm7 (b5)	A $\flat$ m7 (b5)	Am7 (b5)	B $\flat$ m7 (b5)	Bm7 (b5)
F#aug	Gaug	A $\flat$ aug	Aaug	B $\flat$ aug	Baug
F#sus4	Gsus4	A $\flat$ sus4	Asus4	B $\flat$ sus4	Bsus4
F#7sus4	G7sus4	A $\flat$ 7sus4	A7sus4	B $\flat$ 7sus4	B7sus4
F#7/13	G7/13	A $\flat$ 7/13	A7/13	B $\flat$ 7/13	B7/13



内蔵曲一覧

No.	曲名	作曲者
2.01	ワルツ作品 34-1	ショパン
2.02	英雄ボロネーズ	ショパン
2.03	ノクターン第 20 番	ショパン
2.04	ます	シューベルト、リスト編曲
2.05	水の反映	ドビュッシー
2.06	亜麻色の髪の乙女	ドビュッシー
2.07	ラ・カンパネラ	リスト
2.08	スケルツォ第 2 番	ショパン
2.09	革命	ショパン
2.10	ピアノ・ソナタ 八長調 K.545 第 1 楽章	モーツァルト
2.11	愛の夢第 3 番	リスト
2.12	別れの曲	ショパン
2.13	おまえが欲しい	サティ
2.14	小犬のワルツ	ショパン
2.15	ゴリウオッグのケークウォーク	ドビュッシー
2.16	幻想即興曲	ショパン
2.17	アラベスク第 1 番	ドビュッシー
2.18	美しく青きドナウ	ヨハン・シュトラウス 2 世
2.19	歌の翼に	メンデルスゾーン
2.20	マズルカ第 5 番	ショパン
2.21	ジムノペディ第 1 番	サティ
2.22	牧童（エオリアのハープ）	ショパン
2.23	月の光	ドビュッシー
2.24	黒鍵のエチュード	ショパン
2.25	グラドゥス・アド・パルナッスム博士	ドビュッシー
2.26	華麗なる大円舞曲	ショパン
2.27	乙女の祈り	パダジェフスカ
2.28	トロイカ	チャイコフスキー
2.29	春に寄す	グリーグ
2.30	ワルツ 第 7 番	ショパン
2.31	ラデツキー行進曲	ヨハン・シュトラウス 1 世
2.32	トロイメライ	シューマン
2.33	楽興の時第 3 番	シューベルト
2.34	雨だれの前奏曲	ショパン
2.35	調子のよい鍛冶屋	ヘンデル
2.36	ハンガリア舞曲第 5 番	ブラームス
2.37	トルコ行進曲	ベートーベン
2.38	ノクターン第 2 番	ショパン
2.39	春の歌	メンデルスゾーン
2.40	前奏曲	J.S. バッハ
2.41	狩の歌	メンデルスゾーン
2.42	パスピエ	ドビュッシー
2.43	エリーゼのために	ベートーベン
2.44	トルコ行進曲	モーツァルト
2.45	セレナード	シューベルト
2.46	ユモレスク	ドボルザーク
2.47	花の歌	ランゲ
2.48	アルプスの鐘	オースティン
2.49	メヌエットト長調	ベートーベン
2.50	ベニスの舟歌	メンデルスゾーン
2.51	アルプスの夕ばえ	オースティン
2.52	さらばピアノよ	ベートーベン
2.53	婚礼の合唱	ワーグナー
2.54	忘れな草	リヒナー
2.55	ウィンナ・マーチ	ツェルニー
2.56	かっこう	ダカン

No.	曲名	作曲者
2.57	メヌエットト長調	J.S. バッハ
2.58	紡ぎ歌	エルメンライヒ
2.59	ガヴォット	ゴセック
2.60	のぼら	ランゲ
2.61	ジプシーの踊り	リヒナー
2.62	金婚式	マリー
2.63	クシコス・ポスト	ネッケ
2.64	お人形の夢と目ざめ	オースティン
2.65	すみれ	ストーリーボック
2.66	楽しい農夫	シューマン
2.67	ソナチネ 作品 36 の 1 第 1 楽章	クレメンティ
2.68	ソナチネ 作品 20 の 1 第 1 楽章	クーラウ
2.69	ソナチネ第 5 番第 1 楽章	ベートーベン
2.70	きらきら星	フランス民謡
2.71	メリーさんのひつじ	外国曲
2.72	森のくまさん	アメリカ民謡
2.73	山の音楽家	ドイツ民謡
2.74	大きな古時計	ヘンリー・ワーク
2.75	花	滝 廉太郎
2.76	浜辺の歌	成田 為三
2.77	紅葉	岡野 貞一
2.78	雪	文部省唱歌
2.79	ハッピー・バースディ	M. ヒル、P. ヒル
2.80	恋に落ちた時	ビクター・ヤング
2.81	朝日のごとくさわやかに	シグマンド・ロンバーク
2.82	時の過ぎゆくままに	ハーマン・フップフェルド
2.83	サマータイム	ジョージ・ガーシュイン
2.84	ムーンライト・セレナーデ	グレン・ミラー
2.85	メープル・リーフ・ラグ	スコット・ジョップリン
2.86	ティコ・ティコ	ゼキーニャ・ジ・アブレウ
2.87	四季より「春」	ビバルディ
2.88	軍隊行進曲	シューベルト
2.89	二人でお茶を	ビンセント・ユーマンズ
6.01 : 6.99	バイエル第 1 ～ 99 番	バイエル
6.00 : 6.66	バイエル第 100 ～ 106 番	バイエル
c.01	素直な心	ブルグミュラー
c.02	アラベスク	ブルグミュラー
c.03	牧歌	ブルグミュラー
c.04	子供のパーティー	ブルグミュラー
c.05	無邪気	ブルグミュラー
c.06	前進	ブルグミュラー
c.07	清いながれ	ブルグミュラー
c.08	優美	ブルグミュラー
c.09	狩	ブルグミュラー
c.10	やさしい花	ブルグミュラー
c.11	せきれい	ブルグミュラー
c.12	お別れ	ブルグミュラー
c.13	なぐさめ	ブルグミュラー
c.14	スティリエンヌ	ブルグミュラー
c.15	バラード	ブルグミュラー
c.16	小さな嘆き	ブルグミュラー
c.17	おしゃべり	ブルグミュラー
c.18	不安	ブルグミュラー

No.	曲名	作曲者
c.19	アヴェ・マリア	ブルグミュラー
c.20	タランテラ	ブルグミュラー
c.21	天使の声	ブルグミュラー
c.22	舟歌	ブルグミュラー
c.23	家路	ブルグミュラー
c.24	つばめ	ブルグミュラー
c.25	貴婦人の乗馬	ブルグミュラー
d.01 . d.36	メジャー・スケール、マイナー・スケール (ハーモニック、メロディック)	---

※ これらの内蔵曲を個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。

※ 本機には楽譜は含まれておりません。各社より出版されている楽譜をお買い求めください。

安全上のご注意

⚠ 警告

Auto Off 機能について

本機は、演奏や操作をやめてから一定時間経過すると自動的に電源が切れます (Auto Off 機能)。自動的に電源が切れないようにするには、Auto Off 機能を解除してください (P.12)。



付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



付属の電源コードを使用する

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



⚠ 注意

移動するときの注意

本機を移動するときには以下のことを確認したあと、必ず 2 人以上で水平に持ち上げて運んでください。このとき、手をはさんだり、足の上に落としたりしないように注意してください。



- ・ 機器本体とサイド・ボードを固定しているネジがゆるんでいないか、確認する。ゆるんでいる場合は、しっかり固定する。
- ・ 電源コードをはずす。
- ・ 外部機器との接続をはずす。
- ・ スタンドのアジャスターを上げる (P.8)。
- ・ 蓋を閉じる。
- ・ 譜面立てをはずす。

指などをはさまないように注意する

下記の可動部を操作するとき、指などをはさまないように注意してください。お子様が使用されるときは、大人のかたが監視／指導してください。



- ・ 蓋 (P.10)
- ・ ペダル (P.8)

⚠ 注意

小さな部品はお子様の手の届かないところに置く

下記の部品はお子様が誤って飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。



- ・ 付属品／取りはずしが可能な部品
ネジなど

使用上のご注意

設置について

- ・ 至近距離から照らす照明器具 (ピアノ・ライトなど) や強力なスポット・ライトで長時間同じ場所を照らさないでください。変形、変色することがあります。
- ・ 鍵盤の上にものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。

お手入れについて

- ・ お手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、固く絞った布で汚れを拭き取ってください。木目にそって全体を均一の力で拭くようにします。同じ所ばかり強くこすると、仕上げを損なうことがあります。

鍵盤の取り扱いについて

- ・ ペンなどで書き込みをしたり、印を付けたりしないでください。インクが表面のラインに染み込んで落ちなくなります。
- ・ シールなどを貼ったりしないでください。粘着力の強いものでは、シールがはがれなくなったり、粘着剤によって変色したりすることがあります。
- ・ ひどい汚れを落とすときは、研磨剤入っていない市販の鍵盤クリーナーを使ってください。はじめは軽く拭くようにします。汚れが落ちないときは、傷がつかないように徐々に力を入れながら拭くようにしてください。

修理について

- ・ 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

- ・ 当社では、本機の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を、製造打切後 8 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- ・ 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- ・ 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- ・ ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ・ 演奏時の打鍵音や振動は床や壁を通じて意外によく伝わります。周囲に迷惑がからないように注意しましょう。
- ・ 譜面立てを使用するときは、譜面立てに強い力を加えないでください。
- ・ 抵抗入りの接続ケーブルは使用しないでください。
- ・ ヘッドホン・フックにヘッドホン以外のものをかけたり、無理な力を加えたりしないでください。ヘッドホン・フックを破損することがあります。

外部メモリーの取り扱い

- ・ 外部メモリーを使うときは次の点に注意してください。また、外部メモリーに付属の注意事項を守ってお使いください。
- ・ 読み込み中や書き込み中には取りはずさない。
- ・ 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。

電波に関する注意

- ・ 以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- ・ 本製品を分解／改造する
- ・ 本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす
- ・ 本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) や特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)、アマチュア無線局 (免許を要する無線局) が運用されています。
- ・ 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ・ 移動体識別用の構内無線局や特定小電力無線局、アマチュア無線局に対して、万一、本機が原因と思われる有害な電波干渉の事例が発生した場合には、電波の発射を停止した上で、混信回避のための処置等 (たとえば、パーティションの設置など) についてローランドお客様相談センターにご相談ください。
- ・ その他、発生した問題についてお困りの場合も、ローランドお客様相談センターにご相談ください。
- ※ローランドお客様相談センターへの連絡につきましては、取扱説明書などに記載の「お問い合わせの窓口」をご覧ください。
- ・ 認証取得済みの特定無線設備を搭載しています。

知的財産権について

- ・ 第三者の著作物 (音楽作品、映像作品、放送、実演、その他) の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- ・ 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。

- ・ 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど) の著作権は当社が保有しています。
- ・ 製品に内蔵、付属されたコンテンツ (ただしデモ曲などの楽曲データは除く) を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をすることに関しては、当社の許諾を必要としません。
- ・ 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- ・ MMP (Moore Microprocessor Portfolio) はマイクロプロセッサのアーキテクチャーに関する TPL (Technology Properties Limited) 社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。
- ・ XGLite (Xgame) はヤマハ株式会社の登録商標です。
- ・ Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ローランドはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- ・ Roland, BOSS, SuperNATURAL, Ivory Feel, GS は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- ・ 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

